



S . H a s h i m o t o w o r k s 2 0 1 1



Copyright © 2009 Tomo Hasegawa All Rights reserved

『小夜』

長い刀身に指かけ穴をあしらったナイフです。ダマスカスによる大型の刀身は見ごたえがあります。

ダマスカスの模様をあらわすため、多くの場合作品表面にエッチングを施しますが、その処置により、あたかも出土品のような雰囲気をもとめます。この作品ではその点に着目し、雰囲気を合わせた鞘を制作しました。

「小夜」

7mm×55mm×460mm

鋼（ナイフ）／集成材・鉄（シース）

2009年制作 個人蔵

価格 160,000円



Copyright © 2009 Tomo Hasegawa All Rights reserved

小夜

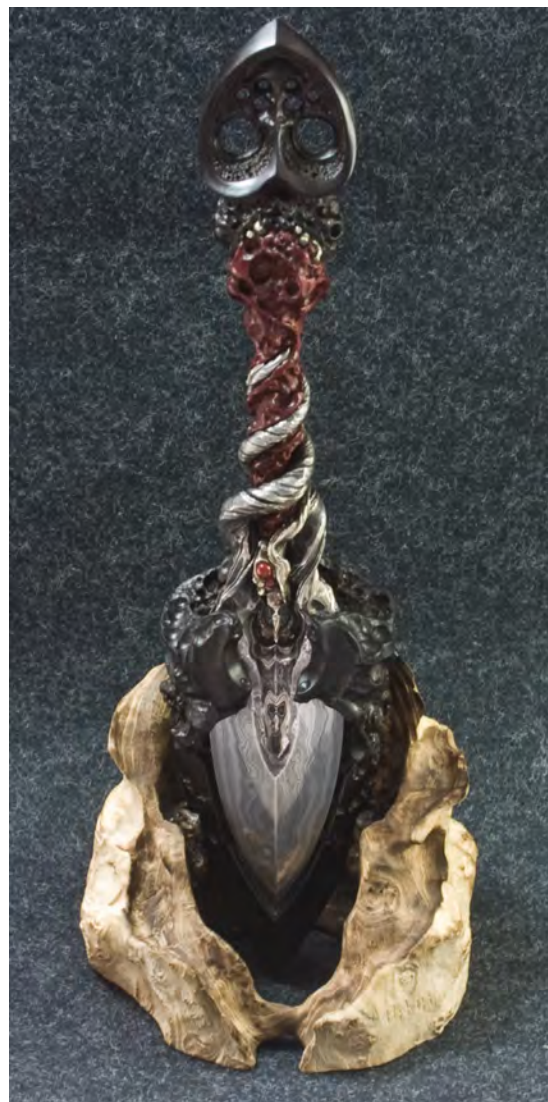


Copyright © 2009 Tomo Hasegawa All Rights reserved

『 巻柄 』

槍をイメージしたダガーナイフです。改正銃刀法で許可された5cm未満の刀身で、如何に見ごたえのあるナイフにできるか挑戦したシリーズです。

柄の部分に刃部をまきつけるように組み立てるため、ねじのように分解が可能です。グリップ、スタンド等、細かい木彫に凝ったシリーズでもあります。



画像上：「巻柄 02」

10mm×30mm×200mm

鋼・ニッケル・コパール（ブレイド） 紫檀・黒檀・蠟石（グリップ）

鋳鉄・真鍮ロウ（スタンド）

2009年制作 作家蔵 価格 180,000円

画像下：「巻柄 03 緋針」

10mm×30mm×180mm

鋼・ニッケル・コパール（ブレイド） コーヒーの木（スタンド）

サティエネ・黒檀・シャム柿・純銀・四分一・洋白・瑪瑙（グリップ）

2010年制作 個人蔵 価格 250,000円



左の画像は蒔絵03・緋針を分解した状態です。工区なしでの分解・組み立てが可能です、容易にメンテナンスを行うことができます。



『 酔月 』

炭素鋼のみによるダマスカスの表現に挑戦した作品です。日本刀でいう、四方詰めのような組み方をしたダマスカスを、さらに何度も折り返すことで、細かい層の中に、黒と白の紐がのたうつような模様が現れました。

炭素鋼のみの鋼材ですが、エッチング時の酸化被膜が、光の具合により、濃淡の青～緑に輝いて見えます。

日本刀の観賞会というイベントでは、柄も金具も取り去った状態の日本刀を手に取り、光にかざして姿・肌・刃紋等をなめるように観賞します。ダマスカスナイフにも、あのような眺め方をする、そのみの作品があってもいいのではないかと思います、幅広のブレイドに、グリップのないデザインとしました。タングの部分には、玉鋼の断面をイメージした彫刻を施しました。シースは、部分的に焼いたパオロッサと、925銀を用いた金具で制作しています。



「酔月」

7mm×50mm×390mm 鋼（ナイフ）／パオロッサ・シャム柿・925銀（シース） 2010年制作 作家蔵 280,000円



『 水咲 』

モザイクダマスカスに挑戦した際、幾何学的なモザイク模様には冷たい感じを受け、そのままの無機的な表現に抵抗を感じました。そのため、作品を魚のような有機的な形状にデザインし、模様も無作為な木目模様の中に時折モザイクが見える表現としました。ナイフの種類としては、切り出しに分類されるかかと思っています。水をイメージした木彫のシースが付属します。

画像上：「水咲 02 サヨリ」

15mm×25mm×220mm

鋼・ニッケル（ナイフ）／チーク（シース）

2009年制作 個人蔵 価格 65,000円



画像中：「水咲 03 灯籠流し」

15mm×30mm×200mm

鋼・ニッケル・コパール（ナイフ）

シャム柿・組みひも・象牙（シース）

2009年制作 個人蔵 価格 100,000円



画像下：「水咲」

13mm×20mm×10mm

鋼・ニッケル（ナイフ）／ケヤキ（シース）

2009年制作 個人蔵 価格 45,000円



『環』

「蕨手の小刀」というオーダーをいただき
て制作したシリーズです。初期のものは、握
りやすくなるようにグリップに窪みをつけま
した。近作では、グリップ部分を中空の袋打
ちとし、重量を抑えながら、ボリュームのあ
るデザインとしています。

鉄に木目金の金具を取り付けたメタルシー
スが付属します。内部にはレザーシースを組
み込みました。



画像上上：「環 04」

12mm×25mm×180mm

鋼・ニッケル・コパール（ナイフ）／鉄・銅・真鍮・錫合金・牛革（シース）

2011年制作 作家蔵 価格 70,000円

画像上下：「環 06」

20mm×25mm×170mm

鋼・ニッケル・コパール（ナイフ）／鉄・銅・真鍮・錫合金・牛革（シース）

2011年制作 作家蔵 価格 75,000円



Copyright © 2011 Yoshihiro Yamashita All Rights reserved

画像下上：「環 03」

13mm×30mm×210mm

鋼・ニッケル・コパール（ナイフ）／鉄・鋳鉄・錫合金・牛革（シース）

2011年制作 個人蔵 価格 65,000円

画像下下：「環 01」

8mm×30mm×220mm

鋼・ニッケル・コパール（ナイフ）／鉄・鋳鉄・錫合金・牛革（シース）

2011年制作 個人蔵 価格 60,000円



Copyright © 2011 Yoshihiro Yamashita All Rights reserved



『 DANIELS 』

ダニエルさんという方の、パッチナイフという作品を見せていただく機会があり、その作品の要素を自分なりに解釈してデザインしたシリーズです。鍛造品の動きと、ダマスカスの質感とがマッチし、植物の蔓のような雰囲気になりました。



Copyright © 2010 Yoshihiro Yamashita All Rights reserved

画像上上：「古魂」 13mm×55mm×220mm
鋼・ニッケル（ナイフ）／桜・サティアーネ・鉄（シース）
2009年制作 個人蔵 価格 65,000円

画像上下：「蔓」 20mm×55mm×250mm
鋼・ニッケル（ナイフ）／桜・パオロッサ・鉄（シース）
2009年制作 個人蔵 価格 80,000円

画像下上：「蔓 03」 20mm×60mm×260mm
鋼・ニッケル（ナイフ）／コーヒー・サティアーネ・鉄（シース）
2010年制作 個人蔵 価格 110,000円

画像下中：「朽葉」 20mm×60mm×200mm
鋼・（ナイフ）／コーヒー・パオロッサ・鉄（シース）
2010年制作 個人蔵 価格 110,000円

画像下下：「古魂 02」 13mm×55mm×200mm
鋼・ニッケル（ナイフ）／コーヒー・サティアーネ・鉄（シース）
2009年制作 個人蔵 価格 55,000円



Copyright © 2010 Yoshihiro Yamashita All Rights reserved



画像左：「玄弧 02」

18mm×45mm×150mm

鋼・ニッケル・コパール（ブレイド）

鉄・錫合金・牛革（シース）

マイカルタ・ステンレス（グリップ）

2011年制作 作家蔵

価格 120,000円

画像右：「玄弧 03」

18mm×50mm×180mm

鋼・ニッケル・コパール（ブレイド）

マイカルタ・ステンレス（グリップ）

2011年制作 作家蔵

価格 120,000円



『玄弧』

鍛造ダマスカス作品の魅力を、シンプルなシルエットに納めることを目的として制作したシリーズです。曲線をつなげ、小型のナイフをデザインしました。ダマスカスナイフは手で鍛造する工程を経るため、つい鍛造の造形、加工痕の面白さに頼ってしまいます。

しかし、ダマスカスは磨いた部分の断面にそれまでの工程が模様となって現れる素材です。この作品では、すべての表面を磨き上げ、ダマスカスの組織によるマチエールのみで、加工の痕跡を表現しました。

ねじ部は、鍛造でた叩き出しているため、中央の穴を覗き込むと、内部の模様が反対側までつながっている様子を御覧頂けるとと思います。

グリップは、ねじで着脱するマイカルタ製の物が付属します。



『小葉』

昔から愛用している共柄のナイフがあり、そのナイフから着想を得て制作した作品です。鋼の1ピースのみのデザインは、そういう形に収まっている何かの生き物であるかのように見え、鋼材の穴が目のようにも見えてきます。

その感覚を、ダマスカスの繊細な表情を利用して、よりリアルに感じることを目指したシリーズです。

画像上：「小葉 02 透羽」

7mm×25mm×230mm

鋼・ニッケル・コパール（ナイフ）

鉄・鋳鉄・牛革（シース）

2011年制作 作家蔵 価格 60,000円

画像下中：「小葉 03」

7mm×50mm×170mm

鋼・ニッケル・コパール（ナイフ）

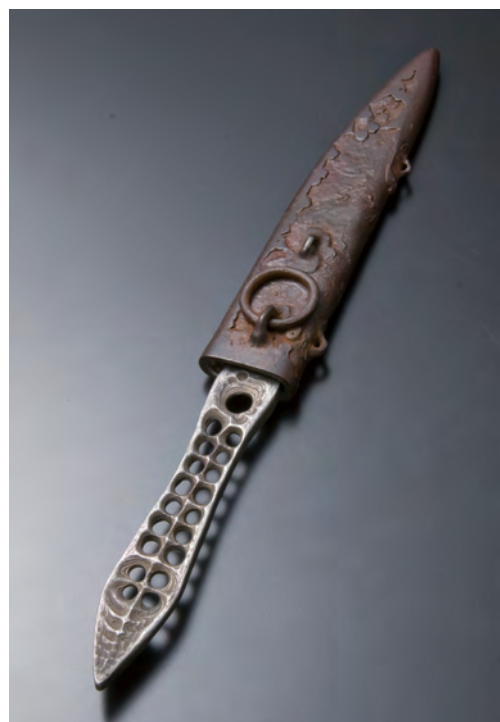
2011年制作 個人蔵 価格 80,000円

画像下右：「小葉」

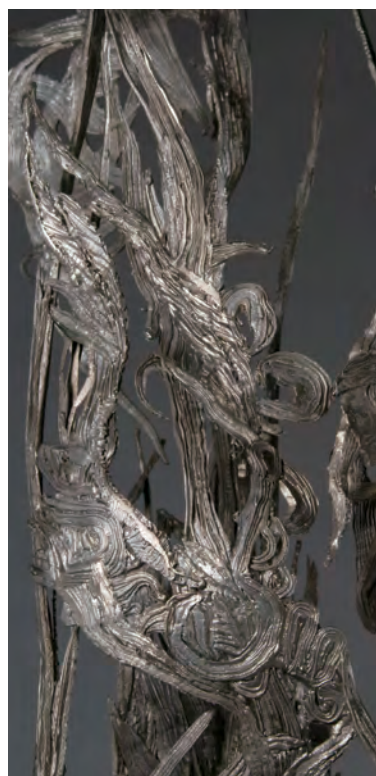
9mm×30mm×240mm

鋼（ナイフ）

2009年制作 作家蔵 価格 60,000円



Copyright © 2009 Tomo Hasegawa All Rights reserved



『双羽』

「偶像としてのナイフ」をテーマに制作している連作です。学生時代、これらの作品の素材として、ダマスカスを研究してきました。

私の場合、ナイフは、実用のための道具ではなく、力の象徴としての存在でした。その感覚の形象化を目指し、「ナイフの神様の像」のつもりでデザインしました。

ナイフは、モノを切る力のある刃と、人が握る為の柄で構成されます。この連作は、柄の代わりに、天使の翼をイメージした造形を行い、人の手を離れた、存るだけの刃として制作しています。

ダマスカスという素材は、時に作者も意図しない動きをし、また、到底手作業ではたどりつけない、生きているのではないかと思うほどの精緻なマチエールを見せてくれます。

「神の像」のつもりで制作してきましたが、それらと出会った瞬間は、人ならざるものの気配を感じ、神や天使が降りてきたのではないかという錯覚に陥ります。

その瞬間が、より、複雑なダマスカスを目指し、次のナイフを作る動機にもなっているように思います。

「双羽千花」

180×180×1710 鋼（7種）・ニッケル

2007年制作 作家蔵





「双羽寒咲」

130×60×580 鋼（7種）・ニッケル

2005年制作 作家蔵



「双羽真咲」

100×70×580 鋼（7種）・ニッケル

2005年制作 作家蔵



「綾夜」

180×150×990 鋼(8種)・ニッケル

2006年制作 作家蔵



「双羽御咲」

85×55×930 鋼(7種)・ニッケル

2006年制作 作家蔵



「一刃千夜」

9mm×110mm×1710mm

鋼（25種）・鉄（3種）レアメタル（2種）
・レアメタル合金（2種）・ギベオン隕鉄

2010年制作 作家蔵

『一刀千夜』

14歳のころ、初めてナイフを作り、以来、力を象徴する偶像としてナイフと接し、制作してきました。2010年に倍の28歳になり、ナイフ制作歴が人生の半分を超えた、その記念のつもりで制作した作品です。

ダマスカス鋼の制作時、完成した鋼材の両端には仮留めの溶接痕等が残っているため、切り落とします。捨てるのももったいないので、14年分大量に溜まっていた。

これを再利用するため、最初のナイフを芯に、今まで制作したダマスカスのかけらを打ちまとめ、一枚の鋼材としました。当初の予定では、そのまま折り返し、ムラがなくなるように練りこんでいく予定でした。

ところが、鍛接したままのこの状態で、一つ一つのかげらが主張してくる様子がなかなか面白く感じられました。

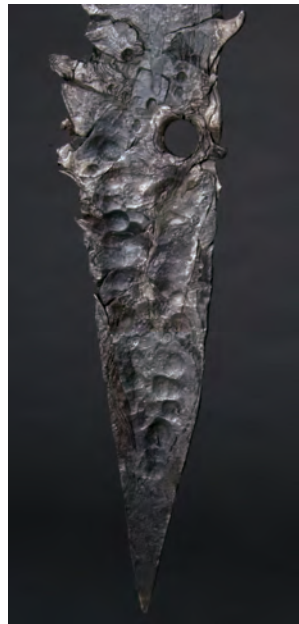
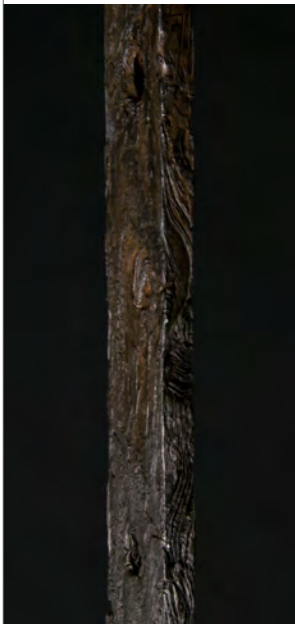
そこで、これまでのかけらをそのまま残す形で、刃物としての力の象徴、「魔剣」をイメージしたシルエットに打ちあげました。

画像右：上から

- ・「ナイフ」 60×30×520 鋼・ビニールテープ・木材
- ・ナイフとダマスカス小片
- ・鍛接のため、炉中にて加熱中
- ・ダマスカス小片を鍛接する途中経過
- ・焼き入れの為火床にて加熱中

画像下：左から

- ・柄部拡大画像
- ・中間部拡大画像
- ・切先部拡大画像





『ピザカッター「月」』

ダマスカス鋼とモクメダマスカスを用いたピザカッターです。円盤を月に見立て、柄はフルートやオーボエのような管楽器をモチーフとしています。

ダマスカスの模様を觀賞しやすくするため、鍛造により片側に突起を作り、その箇所をホールドするデザインにしました。

また、ピザを切るとひどく汚れるため、細かく分解して清掃できる構造です。

画像上：「月々 新月／満月」

35mm×60mm×170mm

鋼・ニッケル・コパール（ブレイド）

真鍮・銅・洋白・ステンレス・レースウッド／桤（グリップ）

2010年制作 作家蔵 価格 150,000円

画像左：「月音 新月／満月」

30mm×58mm×160／200mm

鋼・ニッケル・コパール（ブレイド）

真鍮・銅・洋白・ステンレス・らっきょう竹／ホテイ竹（グリップ）

2009年制作 個人蔵 価格 150,000円

右の画像は初期の作品「月歌 新月／満月」を清掃のために分解した状況です。ダマスカスの使用後は、清掃とオイルの塗布が必須です。近作では金具と木部も分解が可能になっています。





『 葵 』

振り子のように揺れるナイフを目指して制作しました。時計の針がモチーフです。スタンドは、ナイフを点で支える構造になっており、この作品は、エアコン等のわずかな風で揺れ続けます。デスクに置いていただけましたら、なかなかの存在感を持つナイフです。

「葵」

8mm×30mm×170mm 鋼・ニッケル・コパール（ナイフ）／サポテン・純金・純銀・ステンレス・形状記憶合金（スタンド）

2010年制作 個人蔵 価格 50,000円



『Dama - L i g h t e r』

ダマスカスは、練るほどに燃料費と手間がかかるため、凝ったものはどうしても価格が高くなってしまいます。そんな凝ったダマスカスの良さをほどほどの価格でお伝えできないか？というコンセプトで制作しました。

市販のライターの側面に、表裏で違う模様のダマスカスのプレートを取り付けた製品です。素体には Silver Match 社の Attitude、及び Armor Zippo を用いています。



画像左上／中段 「Dama Armor Zippo」

11mm×35mm×50mm

鋼・ニッケル・コパール・Armor Zippo

2010年制作 個人蔵 価格 35,000円

画像右上／下段：「Damascus match」

13mm×30mm×60mm

鋼・ニッケル・コパール・Attitude

2009年制作 個人蔵 価格 20,000円



画像上：「ダマスカスリング」

9号～35号 鋼・ニッケル・コパール・silver950
2009年制作 作家蔵 価格 12,000～20,000円



画像下：「ダマスカスバングル」

18mm×50mm×70mm

鋼・ニッケル・コパール・silver950・銅（画像上）

／+24金・18金・ラピスラズリ・赤サンゴ・ホワイトアゲート（画像下）

2010年制作 個人蔵 価格 30,000～100,000円

『Accessory』

ダマスカスを用いた装身具です。ダマスカスは表面処理によって、さまざまな色に発色します。アクセサリーにまとめることで、

ダマスカスの美しさをより身近においていただけたと思います。

単体では体に触れる部分に錆が発生しやすいため、銀等の貴金属と組み合わせています。

また、現在、さらなる耐久性向上のため、さまざまなコーティングを試験しています。

画像右：「ダマスカスペンダントトップ」

鋼・ニッケル・コパール・silver950等

2009～2011年制作 個人蔵

価格 12,000～20,000円





Copyright © TOMO HASEGAWA All Rights Reserved

『 髑髏面 』

仮面が好きという方のオーダーで制作した面です。仮面・髑髏・吸血鬼・アメコミヒーロー等、その方のお話から拾ったキーワードと、自分のスキルとの組み合わせで誕生した作品です。お面本体はアルミニウムにカシュー焼き付け塗装、歯と牙はダマスカスです。牙は着脱可能で、抜くと画像のようなナイフになっています。

「 髑髏面 鬼 」

100mm170mm×250mm

アルミニウム・カシュー（面）／鋼（歯・牙）

2009年制作 個人蔵 価格 380,000円



『 髑髏面 』

髑髏面の二作目です。前回のお面を見てオーダーをいただき制作しました。今回は工芸品がお好きな方と伺いましたので、前回の表現に工芸品の風味を加えることを試みました、素材に銀を使い、鍛金作品風に仕上げています。本体に合わせ、歯と牙の鋼材にステンレス・ニッケル・コパール等を使用し、白く仕上げました。前作同様、牙を抜くとナイフになっています。

「 髑髏面 魄 」

85mm160mm×250mm 950銀・銅(面)／鋼・ニッケル・コパール(歯・牙) 2010年制作 個人蔵 価格 580,000円



『 刀装具 』

三上貞直刀匠の刀装を制作させていただいたものです。これまでに、小柄と目貫を制作しました。刀装金具には様々なルールがあるそうで、毎回勉強させていただいています。

次はダマスカスによるメタルシースに挑戦する予定です。

画像上：「市松文様小柄」

7mm×13mm×95mm 鋼・ニッケル
2010年制作 個人蔵 価格 40,000円

画像上：「海牛図目貫」

7mm×17mm×43mm 銀・四分一・赤銅・14金・18金
2009年制作 個人蔵 価格 80,000円



「ダマスカス」について

私のナイフは、主にダマスカスと呼ばれる技法・素材で制作しています。

「ダマスカス」という名称は本来、かつてインドで生産されたウーツ鋼と呼ばれる鑄鉄から作られる製品を指す言葉だったそうです。当時、ウーツ鋼で作られた剣は、切れ味・強度ともに優れたものとされ、西欧諸国で高く評価されました。この剣がダマスカスという都市で加工されていたために、ダマスカス・ソードと呼ばれ、ウーツ鋼はダマスカス鋼として知られることとなったそうです。優れた素材で在ったウーツ鋼でしたが、その製法は時の流れとともに失われてしまったそうです。

ウーツ鋼は特有の組織を構成し、その表面には木目やさざ波のような模様が見られたそうです。そこから着想を得、多種類の鋼を鍛え合わせるという技法で復元を試みたものが現在の「ダマスカス」です。私の扱う素材もこちらになります。

この「ダマスカス」は、素材の選択・鋼材の構成・熱処理・表面処理という各要素の組み合わせで、様々な変化を見せてくれる素材です。複雑な要素が絡み合うため、制作者の想像を軽々と越えた表情を見せ、金属でありながら、まるで自我があるかのようです。複雑に組み上げた鋼材の表面は、ただ、模様が有るのではなく、生物の組織として見えてきます。

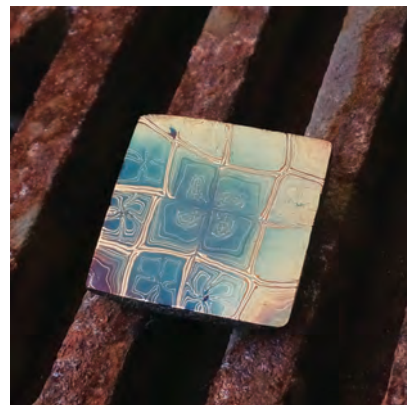
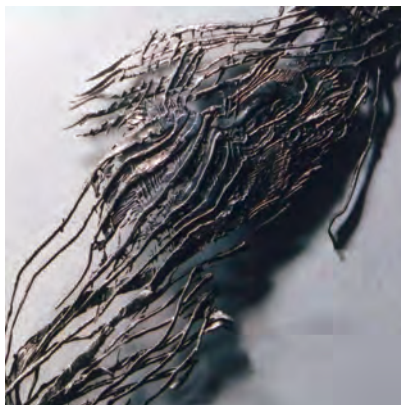
そして、自らが己の作品の観賞者となった際には、とても自分が作ったとは思われず、あたかもその形をした生き物と対峙しているような錯覚を覚えます。

それが楽しく、親しみを感じるため、より複雑で素材も工程もわからない「ダマスカス」を目指し、新しい表現を研究しています。

街中で生まれ育った私にとって、ナイフは日常生活に不必要な存在でした。それ故に、道具でありながら、利器としての用から解放された存在であると思います。

私のナイフは高品質な刃を求めるとともに、「ダマスカス」から感じられる生命感ともいうべき感覚を活かせる作品を目指します。

模様を眺めるため、人形のように愛でるため、あるいはイメージを膨らませる媒体として、お手元において楽しんでいただけましたら幸いです。



橋本 庄市

1982年5月2日生まれ 広島県福山市出身

2001年	私立盈進高校卒業	
2001年	広島市立大学 芸術学部 デザイン工芸学科	入学
2005年	広島市立大学 芸術学部 デザイン工芸学科	卒業
2005年	広島市立大学 芸術学研究科 造形計画専攻	入学
2007年	広島市立大学 芸術学研究科 造形計画専攻	修了
2007年	広島市立大学 芸術学研究科研究生	
2008年～現在	広島市立大学 芸術学部 金属造形分野非常勤助教	
2010年～現在	広島KAZARU展	理事
2011年	全日本刀匠会	後継者賛助会員
2008年	「日本クラフト展」	入選
	「HCKCナイフショウ 2008」	出展
2009年	「ナイフマガジン 2009年6月号」	表紙写真 特集記事掲載
	「HCKCナイフショウ 2009」	出展
2010年	「美ナビ展」	入選
	「HCKCナイフショウ 2010」	出展
	「ほぼ日作品大賞」	入選
	「関アウトドアナイフショウ2010」	出展
2011年	「銀座ナイフショウ（2月）」	出展
	「ナイフマガジン 2011年6月号」	作品画像掲載
	「銀座ナイフショウ（7月）」	出展
	「ナイフマガジン 2011年10月号」	作品画像掲載
	「関アウトドアナイフショウ2011」	出展 関市輸出産業連合会理事長賞 受賞
	「HCKCナイフショウ 2011」	出展